

株式会社丸五製綱所



📍 本社所在地 / 蒲郡市形原町東中畑29-2
 🔍 業務内容 / ロープ製造
 👤 従業員数 / 14人(男性 8人・女性 6人)

グループ会社

株式会社麻生 📍 蒲郡市形原町東欠の上14番地1
 🔍 スポーツネット仕立て加工 👤 18人(男性2人/女性16人)

女性社長の視点 多様な人材で 地域と未来を繋ぐ柔軟経営

Interview



Q 間瀬さんは大正時代から続く丸五製綱所の5代目社長、またロープ生産量日本一を誇る蒲郡市の形原でロープ製造業では数少ない女性代表と伺いました。社長就任の経緯をお聞かせください。

間瀬: 私はこれまで製造業で働いた経験が無く、また、男性が活躍する分野であるというイメージを持っていました。そのため、自分が会社を継ぐことは無いだろうと考えていました。しかし、先代の父が突然他界し、株主やお取引先様から血縁で継承して欲しいとの声をいただきました。ちょうどコロナ禍で社員たちの生活を考え、覚悟を決めて丸五製綱所と麻生の代表取締役を拝命しました。社員の名前もロープの作り方も分からなかったのです。まずは現場に入ってコミュニケーションを取り、勉強を始めました。

Q 大きな決断をされたんですね。男性が多い業界とのことですが、御社では多くの女性社員が働いていますね。勤続年数の長い方もいらっしゃいますか？

間瀬: 15年以上働いている人が多いですね。外国人の社員も多く受け入れています。中でも勤続30年以上の女性パート社員には麻生の工場長を任せています。子育て期に働き始め、今は孫の世話があるため15時に退社します。女性が多く働いていることで、家庭での問題や子育てと仕事の両立の難しさの共通認識があるように思います。そのおかげで、子どもの急な病気で休む時なども気兼ねなく伝えられるのかもしれませんが。なんでも相談できる雰囲気づくりを大切にしています。

Q 女性が働きやすい工夫はありますか？

間瀬: 作業着をデザイン性のあるTシャツに変えました。女性社員は仕事終わりに買い物をしたり、途中で抜けて授業参観に行ったりするので、着替えずにそのまま行けるようなものにしました。また、時間単位での有給取得を可能にしました。

Q コミュニケーション活性のための社内行事はありますか？

間瀬: 以前は食事をしていましたが、コロナの時に無くしました。代わりに半年に一回ほどキッチンカーを呼んで昼食をふるまっています。メイン料理は会社から提供しますが、女性社員はサイドメニューを自費で購入して家族のお土産にしていますね。近隣のお年寄りも買いに来てくれます。近所のスーパーの定休日と重なるととても助かるとお声をいただいています。

Q 社内向けに発信はされていますか？

間瀬: 自分たちの仕事が社会とどう関わり、「安心・安全」を支えるモノづくりをする大切さを伝えると同時に社長の想いを社員たちにも伝えていきます。例えば蒲郡市のベンチアートプロジェクトに活用していただいた際は、開会式にパート社員と一緒に参加しました。給与だけでなく働き甲斐やワクワク感を社員と共有したいと思っています。

Q ロープを活用して他分野とも連携しておられると伺いました。

間瀬: はい。産業・観光・教育そして環境に貢献し、地場産業とロープ業界の発展に寄与したいという思いで取り組んでいます。地元小学校への出前授業や大学の建築学部とのコラボ、女性クリエイター達とロープの廃材を活用したストラップや犬のリードなどを開発し、地元温泉旅館で紹介するなどをしています。地場産業活性化プロジェクトにも参加し、ファッションイベントにも関わっています。

Q 同席した女子大学生インターンの皆さんにも伺いました。女性たちに勧めたいこの会社の魅力は？

インターン: 社長の人柄に惹かれました。社員の皆さんが親しみやすく、温かく受け入れてくれてコミュニケーションも取りやすかったです。重労働でも環境が良ければ頑張れると感じました。

インターン: ロープを用いてのアクセサリーなど意外な取組もあり、自社のことだけでなく地域のことも考えている会社だと伝えたいです。

